

国立科学博物館と福井市立郷土自然科学博物館共催の植物、昆虫合同観察会実施報告

小林 貞七

当博物館創立20余年来、他と合同のもとにこの種の行事が行なわれたのは初めてのことである。しかも今回の観察会は、国立科学博物館からの呼びかけに応じて実施されたもので、当博物館にとっては願ってもない好機会であった。以下その概要を摘記する。

1. 期 日 昭和48年8月25日～27日
2. 観察地 25日 坂井郡雄島付近の観察
26日 大野市上小池一带の観察（整理と懇談会）
27日 北潟湖周辺の観察

3. 指 導

植 物	前国立科学博物館植物研究部長	奥 山 春 季 先生
	国立科学博物館植物研究部技官	金 井 弘 夫 先生
昆 虫	国立科学博物館動物研究部技官	黒 沢 良 彦 先生
総 括	国立科学博物館普及課	青 柳 邦 忠 氏

4. 参加者 全国 26名（男子17名・女子9名）
本県 16名（男子13名・女子3名）
合計 42名

5. 現 地 観 察 の 概 況

(1) 雄島において

本県の海岸地帯では、もっとも自然が完全に近い姿で保護されている地帯だけに、他県からの参加者の興味と関心がひとしおだった。特に暖地性の植物の繁茂する植生には、貴重な存在だとの声の異口同音にもらされていた。ここで注目すべきものでは、



（雄島での観察風景）

タブノキ、ヤブニツケイ、シロダモ、スダジイ、トベラ、マルバシヤリンバイ、テリハノブドウ、キノクニスデ、ヤダケ、アズマザサ、ハマヘクソカズラ、カワラアカガ、ハチジョウススキ等が見ら

れ、特に末記載のハチジョウススキは、本会の収穫のひとつであった。

昆虫では、ヒメカマキリなどが観察された。

ハチジョウススキ

(S48.10.10撮影)



(2) 大野市上小池において

当初の予定では、坂井郡竹田川上流一帯ときめられていたが、かつて見なかった干天続きで、植物の多くが枯死寸前の惨めな状況となったので、急に目的地を変更せざるを得なかった。しかし、結果的には、当上小池は植物や昆虫の豊庫とも思われる多彩さで、遙々集って来られた会員並びに指導の先生方は共々に非常に満足された。当日は運悪くの豪雨であったものの、それには一向意に介しない程の喜び様は異様にさえ感じられた。

観察されたものには、次の様なものが目立った。植物では、

オオバヤエムグラ、サワグルミ、オオクルマムグラ、アサノハカエデ、サラシナショウマ、コンアブラ、シナノキウスゲタマブキ、サイゴクミツバツツジ、オオアキギリ、ルイヨウショウマ、ムラサキヤシオツツジ、オオカニコウモリ、ツリフネソウ（淡紅色の花のもの）カツラ、ヤマブドウ、サワオトギリ、ウワミズザクラ、ヨグソミネバリ、



(刈込池周辺での観察)

ヤマハンノキ、サワダツ、ミヤマカワラハンノキ、オヒヨウ、ヒノウチワカエデ、イタヤカエデ、ユキザサ、オオヤマハコベ、オシヤグジデンド、シラネワラビ、ヤマソテツ、ヒメユズリハ、ヒメモチ、ヒメアオキ、ムラサキマユミ、ハイイヌツゲ、アクシバ、オオバスノキ、オオヤマザクラ、



(川込池周辺での観察)

ブナ、ニガキ、キハダ、
 ハンゴンソウ、ゴマナ、
 ハクサンカメバヒキオ
 コシ、クロバナヒキオコ
 シ、シラネセンキュウ、
 ミヤマシシウド、ダケゼ
 リ、ウマノミツバ、ジャ
 コウソウ、ヤドリギ、ゴ
 トウゾル、クサアジサイ、
 タマアジサイ、イワガラ
 ミ、ノリウツギ、ウシタ
 キソウ、ツリバナ、トチ
 パニンジン、ドクウツギ、

オオレンなど。また昆虫では、ルリイロトンボ(これは本州中部では高地性のもので、おそらくこ
 こが分布の南限ではないかといわれる。)オオルリボシヤンマ、ツヤクロスズメバチ、アリバチモ
 ドキ、マヤサンコブヤハズカミキリ、キマダラコメツキなど。

(3) 北潟湖周辺

鹿島の森及び同附近の海岸の観察である。鹿島の森は、社叢林として、雄島同様によく自然が保
 存されており、スダジイ、タブノキ、ヤブニツケイ、シロダモ、カラタチバナなどが見られ、また
 周辺の海岸では、オオマルスナゴミムシダマシ、オオスナゴミムシダマシ、ハマヒヨウタン、ゴミムシダ
 マシ、ハマベエンマムシ、オオモンツチバチ、ブチヒゲカメムシなどが観察された。

6 感 想

(1) 当館が、国立科学博物館と共催で、

かってないこの種の観察会を実施できたことは、本館にとり、また本県同好の諸氏にとり、非
 常に意義のあることであった。特に植物、昆虫共に一流の権威者を招聘することは到底望み得な
 いことであった。

今般のこの会で、福井県の同好の方々が、中央の講師と接することができ、また、今後何かと
 ご指導を受けるに好都合な顔つなぎができたことは大きな収穫と言えよう。

(2) 全国からの参加者は、各種各様で、教員あり会社員あり、青年あり老人ありで、実に多彩で
 あった、真にこの道を好む人々の集いといった感じである。

(3) 今般なぜ福井県を開催地と定め、当館と共催するに至ったかの理由を付記する。

それは、本館が毎年実施する採集品の名前を聞く会等の実情を、本誌を通じて奥山先生がご承

知になり、それほど熱心な県だからぜひ一度と、若杉孝生氏を通じて打診された結果がかような運びとなったわけである。

- (4) この会の計画、折衝、実施と様々なご苦勞を賜わった、若杉氏及び林幸子氏に深く謝意を表したい。

S.49.3.23 記